

令和7年度 名古屋大学総長顕彰授与式が行われました

令和8年3月25日(水) 於 豊田講堂

| 学修への取り組み 受賞者 | |
|-------------------|----------------|
| 所属 | 氏名 |
| 文学部 人文学科 4年 | QIANG Yueying |
| 教育学部 人間発達科学科 4年 | 鈴木 将矢 |
| 法学部 法律・政治学科 4年 | 水野 蒼 |
| 経済学部 経営学科 4年 | 大辻 洵子 |
| 情報学部 人間・社会情報学科 4年 | 呉 春明 |
| 理学部 物理学科 4年 | Nguyen Tue Tai |
| 医学部 医学科 6年 | 亀井 温那 |
| 工学部 機械・航空宇宙工学科 4年 | 桐山 仁佑 |
| 農学部 資源生物科学科 4年 | 横井 遥佳 |

| 正課外活動への取り組み 受賞者 | | |
|-----------------------------|------------------------|----------------------------|
| 所属 | 氏名 / 団体名 | 分野 |
| 工学部 機械・航空宇宙工学科 3年 | 石渡 利柱 | 正課外活動(その他) |
| 理学部 物理学科 4年 | 坊田 裕磨 | 正課外活動(部活動等) 社会への貢献活動 |
| 医学系研究科 総合保健学専攻 博士後期課程 3年 | 川邊 のぞみ | 正課外活動(部活動等) 正課外活動(スポーツ) |
| 工学部 機械・航空宇宙工学科 3年 | 稲葉 琉斗 | 社会への貢献活動 正課外活動(その他) |
| — | 名古屋大学 フォーミュラチーム FEM | 正課外活動(部活動等) 国際交流 |

(2026年3月時点)

【学修への取り組み 授与式の様子】



QIANG Yueying さん (文学部)



鈴木 将矢 さん (教育学部)



水野 蒼 さん (法学部)



大辻 洵子さん (経済学部)



呉 春明さん (情報学部)



Nguyen Tue Tai さん (理学部)



亀井 温那さん (医学部)



桐山 仁佑さん (工学部)



横井 遥佳さん (農学部)



【正課外活動への取り組み 授与式の様子】



前方左から：杉山総長、佐久間副総長

後方左から：石渡 利柱 さん（工学部 3年）

坊田 裕磨 さん（理学部 4年）

川邊 のぞみ さん（医学系研究科 D3）

稲葉 琉斗 さん（工学部 3年）

名古屋大学フォーミュラチーム FEM 代表者：俵木 大輝 さん（工学部 3年）

QIANG Yueying 文学部 人文学科 4年

人を理解する学び

私は文学部において、人を理解するという視点のもと学修に取り組んできました。その中で認知心理学に関心を持ち、実験や統計の知識を修得する中で、理論として学んだ内容を実証的に確かめたいと考えるようになりました。三年次には認知心理学研究を実践的に学ぶため、生理指標を用いた心理学研究プロジェクトに主体的に参加し、実験準備や機器操作、被験者対応など研究の一連の流れを経験することで、理論と実践を往還しながら理解を深めることができました。これらの経験を基盤として四年次には自身の研究に取り組み、また、将来は国際的に研究に携わることを目標に掲げ、主体的に機会を求めてフランスの認知神経科学サマースクールに参加し、多文化環境の中で専門性と国際的な視野を広げることができました。

今後は大学院に進学し、認知神経科学についてさらに研究力を磨き、国際的に貢献できるよう挑戦し続けていきたいです。

講評：旺盛な探求心と自立的な学びの姿勢により、授業外でも主体的に学修に取り組み、継続的な努力の結果、4年間を通して大変優秀な成績を収めたことは高く評価できる。短期海外留学プログラムやインターシップといった課外活動にも意欲的に参加し、異分野・異文化への理解を深め、社会課題への関心を広げてきた。今後は国際的な研究コミュニティの中で独自の視点を発揮し、学術と社会の双方に貢献する存在となることを期待する。

鈴木 将矢 教育学部 人間発達科学科 4年

正解のない「心」の世界の中で

私は将来、心理職として人の心に寄り添う仕事に就きたいと考え、本学に入学しました。学部での学修では、興味・関心の幅を広く持ち、心理学に限らずどのようなテーマや問いに対しても真剣に向き合う姿勢を大切にしてきました。その中で、人の心を考える際には、心理学の視点だけでは解決できない、正解のない課題が数多く存在することを学びました。

また、一年次から取り組んでいる障害者支援のアルバイトやボランティアでは、当事者の方々やご家族が抱える葛藤や困難、支援の難しさに直面しました。その中で、私自身も迷いや葛藤を抱くことがありましたが、そうした自身の葛藤や一人一人の思いに向き合うことそのものに意義があるのだと実感しました。

今後は、公認心理師・臨床心理士の資格取得を目指して、大学院へと進学する予定です。人の思いに寄り添える心理職となれるよう、今後も正解のない問いや葛藤に向き合いながら、努力を重ねてまいります。

講評：幅広い関心を持ちつつ、思索を深め、他者の意見を真摯に受け止めながら、臨床心理学への理解の幅を広げてきたことは高く評価できる。臨床心理学の探究は、単なる知識の習得にとどまらず、強い問題意識に根ざしており、その姿勢は、今後さらに複雑な課題に取り組む際の大きな強みと言える。多様な価値観を理解しながら、人の「生きにくさ」に寄り添う存在として成長することを期待する。

水野 蒼 法学部 法律・政治学科 4年

法と政治の視点から社会について考える

私は、「大学という場で何を学ぶのか」ということを絶えず問い続けてきました。とりわけ、法や政治への関心から名古屋大学へ3年次編入し、2年間という限られた時間の中で法と政治双方の学修に邁進しました。刑事法ゼミでは、ディベートや実務家との勉強会を通じて現場における法の適用やその難しさを学びました。政治理論ゼミでは、政治学や社会理論に関する文献講読を通じて社会のあり方を考察しました。

併せて、法学研究科への進学希望者向けに開講されている Equip MIRAI コースにも所属し、他のゼミに所属する学生との交流を通じて、自身の関心のあった刑事政策について知見を深めました。卒業論文では、修復的司法をテーマに被害者・加害者の回復と更生の両立を検討しました。

卒業後は税関職員として、水際での法執行という最前線に身を置きます。大学で培った多角的な視点を活かして安全な社会の実現に寄与するとともに、生涯を通じて探究を続けるつもりです。

講評： 編入試験により入学した法学部で、初めての分野に臆せず挑み、法学への強い関心を自ら切り開いてきたこと、講義・演習・課外活動のいずれにも真摯に取り組み、高い成果を挙げてきたこと、刑事政策・刑事学といった未開講分野にまで学びを広げ、卒論テーマとして深く掘り下げてきたこと、これらはいずれも高く評価できる。今後も、幅広い視野と持ち前の探究心により、より良い司法のあり方の探求に取り組むことを期待したい。

大辻 洵子 経済学部 経営学科 4年

手に入れたのは、新しい自分と新しい夢

「自分には何ができるんだろう。」そんな期待と不安を抱いていた4年前の自分と比べると、随分と成長したと感じています。何もできない自分に失望することもありましたが、目の前の面白そうなことにひたすら取り組み続けました。簿記の資格を取ったり、留学生と一緒に英語で授業を受けてみたり。そして最後の1年間では、自分の「好き」をめいっぱい詰めたものづくりにも挑戦しました。名古屋大学共創スタジオ「IdeaStoa」にてサポートを受けながら、Tongali アイデアピッチコンテストに出場して5位入賞とスポンサー賞2社を受賞。獲得した賞金を元手に最終的には商品化まで達成し、「私でもみんなに影響を与えるモノを生み出せる」という自信が芽生えました。また IdeaStoa では、自由に楽しく挑戦を続ける本当に素敵な人たちと会うこともできました。もっと多くの人が自分の好きなことを躊躇なく探求できる社会をつくりたい。それが、4年間の末に見つけた新しい夢です。

講評： 明確な目標設定に基づく継続的な努力と、自発的に学びの幅を広げていく姿勢が際立ち、他の学生の模範となってきた。在学中に日商簿記検定試験を取得したことに加え、実践的な英語運用能力を高めるとともに、異文化協働にも取り組んできたことは高く評価できる。また、学修を通じて培った主体性と実行力により、アイデアピッチコンテストでは受賞を果たした。今後は、より大きな社会課題の解決に取り組み、国際的に活躍できる人材へ成長することを期待したい。

呉 春明 情報学部 人間・社会情報学科 4年

学びに全力で取り組んだ4年間

大学4年間、学びに全力で取り組むことを心掛けてきました。文系出身の私にとって、情報学部での自然科学系の授業は難しいと感じるものもありましたが、参考書を参照したりして理解に努めました。その結果、ほとんどの授業でAやA+の成績を獲得することができました。

3年次には情報哲学講座という研究室に所属し、情報への望ましい接し方について研究しました。当初は哲学の知識をあまり持たない状態でしたが、大学院生の方々と交えた勉強会に積極的に参加して知識を深めていき、卒業論文として成果をまとめることができました。

大学外では、情報技術関連の勉強を個人的に進め、基本情報技術者試験・情報セキュリティマネジメント試験という2つの国家資格に合格しました。

今後は大学院に進学して研究を進め、学会発表などに挑戦していきたいです。研究を通じて、望ましい情報発信者・情報の受け手を増やすことに寄与できればと考えています。

講評： 卓越した学習能力と強い知的探求心を兼ね備え、自然科学系科目にも粘り強く取り組み、2年連続で学業成績優秀者として表彰されたことは高く評価できる。卒業研究では、学んだ様々な知識（哲学、社会学、情報学）を十分に活用し、常識的な見解とは異なる見解の立証を試みるなど、独自性と批判的思考力の高さが示された。自主的に情報技術を学び、2つの国家資格に合格したことも評価に値する。情報社会の課題に新たな視座を提示できるような研究者に成長することを期待したい。

Nguyen Tue Tai 理学部 物理学科 4年

My Academic Journey in Mathematics and Physics

I love mathematics and physics, especially how mathematics can be utilized in physics. During my education here, I had many opportunities to take special mathematics lectures taught by Prof. Serge Richard. Every semester, I learned a new kind of mathematics, and it was very exciting for me. Among the subjects, functional analysis and differential geometry are particularly useful for my studies in physics. In fact, I was able to utilize my knowledge in functional analysis when doing research on a quantum scattering problem with Prof. Richard. In addition, differential geometry was helpful for studying general relativity after I joined the QG lab. Moreover, I also learned general relativity deeply thanks to Prof. Akihiro Ishibashi since he is a good teacher and an expert in this field. All of these learning experiences culminated in my graduation thesis on a quantum singularity theorem where I could use both general relativity and quantum theory. In the future, I plan to obtain a PhD after which I will become a theoretical physicist in the field of quantum gravity, reconciling general relativity and quantum field theory.

Review : The student's strong motivation to learn and effort, together with exceptional mathematical talent, are highly commendable; while advancing through cutting-edge literature on singularity theorems and quantum information, they also possess very high mathematical ability and have already achieved remarkable results, such as publishing papers in the field of mathematical physics. Their high motivation and approach to study have a positive influence on surrounding students and contribute to raising the quality of learning. I hope they will further deepen their high level of understanding and curiosity and become a researcher active at the forefront of theoretical physics.

【和訳】

数学と物理学における私の学問の旅

私は数学と物理学が好きで、特に物理学における数学の活用方法に興味があります。在学中、Serge Richard 教授の数学の特別講義を数多く受講する機会に恵まれました。毎学期、新しい数学を学ぶことができ、大変刺激的でした。講義の中でも、関数解析と微分幾何学は物理学の研究に特に役立っています。実際、Richard 教授と量子散乱問題の研究を行った際に、関数解析の知識を活用することができました。また、QG 研究室に所属してからは、一般相対性理論の研究にも微分幾何学が役立ちました。さらに、石橋明浩教授は優れた教師であり、この分野の専門家でもありましたので、一般相対性理論を深く学ぶことができました。これらの学習経験のすべてが、一般相対性理論と量子論の両方を応用した量子特異点定理に関する卒業論文へと繋がりました。将来は博士号を取得し、一般相対性理論と量子場の理論を融合させた量子重力分野の理論物理学者になることを目指しています。

講評：学修意欲と努力、そして卓越した数学的才能を併せ持ち、特異点定理や量子情報に関する先端研究の文献を読み進める一方、数学的能力も非常に高く、既に数理物理分野で論文を発表するなど類まれな成果を挙げていることは高く評価できる。高い学修意欲と取組姿勢は、周囲の学生にも好影響を及ぼしており、学びの質を高めることにつながっている。高い理解力と探究心を一層深め、理論物理学の最前線で活躍する研究者となることを期待したい。

亀井 温那 医学部 医学科 6年

基礎・臨床をまたぎ、国を超え、続けた挑戦

人間力を研鑽すべく、医学・医療を俯瞰的に捉える挑戦を重ねてきました。

低学年より医学英語講義に積極的に参加し、米英独の大学への短期留学を通じて学術・文化交流に励みました。また、継続的に臨床推論セッション Clinical Case Discussion を主催し、学年を超えて英語で学び合う文化を築きました。これらを通じて、互いの挑戦を認め合う環境の醸成に貢献し、過去最多の海外臨床実習派遣者数を誇る学年となりました。

正課での発がんメカニズムの基礎研究に加え、難病児の診断と病態解明の臨床研究に取り組み、日本小児科学会学術集会で若手優秀ポスター賞を受賞しました。また、本学の一期生として参加した米ノバルティス社リサーチインターンシップでは、最終審査で Biology 部門 1 位を獲得しました。これらの経験から、臨床の最前線に立つ医師の視座が研究にもたらす価値を実感しました。

将来は、臨床と研究を架橋し世界へ発信できる Physician-Scientist として、医学・医療の発展に寄与する所存です。

講評：基礎医学から臨床医学まで幅広く学び、国際的な研究機関における研究活動にも挑戦しつつ、学会賞の受賞など、高い学術的成果を挙げたことは高く評価できる。また、臨床推論勉強会の運営やボランティア活動にも継続的に参加するなど、医療者としての高い倫理観と奉仕精神も有しており、不断の努力を惜しまない姿勢と相まって、他の学生の模範となっている。今後は、国際的な医療課題の解決に寄与し、医療の未来を切り拓く存在としての活躍を期待したい。

桐山 仁佑 工学部 機械・航空宇宙工学科 4年

努力の先を信じて `広く・深く`、

私は将来、技術者や研究者として社会に貢献したいと考えています。そのため、一面の能力向上だけでなく、複数の経験を掛け合わせた上での独自性を発揮することが重要であると考え、工学、ものづくり、言語等の様々な方面の能力を身に付けるべく、大学生活では幅広く挑戦してきました。

学修では、知識を応用して広めることを心掛けました。特に、学生フォーミュラの部活動で、車両の空力デバイスの設計および製作を担当する中で、実際にモノに触れながら工学知識を応用し、必要な箇所を改善しながら学修を深めました。また、1年間の交換留学において、異なる環境下で学びを深め、英語や中国語などの語学力の向上にも取り組みました。

来年度は、名古屋大学大学院 工学研究科 航空宇宙工学専攻に飛び級制度を利用して進学し、流体力学の研究に取り組みます。今後は、流体力学分野の専門性を一段と深めると共に、広い視野を持って学修に取り組んでいく所存です。

講評：明確な目標を持ち、主体的に学び続け、工学的実践と国際経験、高い語学力を自らの成長へとつなげてきた学修姿勢は高く評価できる。課外活動のフォーミュラチームにおいて、設計・製作を通じて磨いた問題解決力や、海外留学で培った柔軟性と高い異文化理解力は、研究者としての大きな強みになると言える。大学院進学後も、これまでの経験を活かして、独自の価値を創出し、新たな知見を切り拓いていける存在になることを期待したい。

横井 遥佳 農学部 資源生物科学科 4年

視野を広げた 4 年間

私は食糧問題の解決に貢献できる人材となることを目指し、農学部に進学しました。食糧問題は世界的な問題であるため、学部での勉強に力を入れるだけでなく英語を用いたコミュニケーション能力の向上にも取り組みました。卒業単位としては認定されない G30 の授業を履修し留学生と共に英語でプレゼンテーションを行い、また、3年次には日本およびカンボジアにおいて、海外の学生とフィールドワークに取り組みました。両国の農業現場を実際に訪れることで、農業の現状について理解を深めることができました。カンボジアでの実地研修を通して、作物のストレス耐性や収量向上の必要性を実感し、現在は土壌中からの吸水に重要な役割を果たす根の形質に関する研究を進めています。4年次には自らの研究内容について国際学会で発表し、海外の研究者と議論を重ねました。今後は大学院に進学し、作物のストレス耐性や収量の向上に貢献できるよう研究に取り組んでいきます。

講評：社会課題への強い問題意識を原動力に、学修・研究・国際交流・課外活動のすべてに誠実かつ粘り強く取り組んできたこと、途上国での農業体験を研究へと昇華させ、論理的思考力と実行力を着実に磨き上げたこと、限られた時間の中で課題を解決し、課外活動と学業を両立してきたこと、これらはいずれも高く評価できる。大学院進学後も、より困難な課題に対して、科学的根拠に基づく新たな解決策を提示し、国内外の農業の発展に貢献する存在になることを期待したい。

石渡 利柱 工学部 機械・航空宇宙工学科 3年

自己表現手段としてのコーディングの魅力

私は、「JAXA Kibo-RPC」,「 Apple Swift Student Challenge」,「 NASA Space Apps Challenge」といった数々の国際プログラミングコンテストにて成果を残しました。これらの挑戦を通じ、世界開発者会議への参加、日本代表として世界大会への出場、国際宇宙ステーション実環境下でのロボット制御といった多くの貴重な体験をしました。

私は一連の活動におけるコーディングを、絵画や音楽と同じような自己表現の道具の一つとして捉えてきたつもりです。他の表現法と異なり、製作テーマに対する情熱や発想の独自性といった抽象的な内容を、技術力の程度に関わらず、わりと素直に表現できる点に魅力を感じます。

今後は、一連の活動を通して培ってきた創造力を活かし、柔軟な視点をもった宇宙航空分野の研究者・開発者を目指して精進してまいります。

講評： 技術による社会課題の解決を強く志向し、独学で身に付けたプログラミング技術を生かして、国際的なコンテストに出場し受賞するなど、個人開発とチーム開発の双方で卓越した実行力と創造性を発揮してきたことは高く評価できる。異なる専門性を束ねて価値を最大化するチームマネジメント力や、国際的な環境での発信力は、将来に向けて大きな強みになると言える。今後は、新たな技術を切り拓くことにより、より大きな規模の社会課題の解決に取り組むことを期待したい。

坊田 裕磨 理学部 物理学科 4年

多様な視点から創る新しい教育

私は、多数のハッカソンやビジネスコンテストに出場する中で、教育とサイエンスコミュニケーションのためのアプリケーションを開発してきました。学生エンジニアの甲子園とも言われる JPHACKS で審査員特別賞や Tongali のインド研修で自分の作ったアプリケーションを用いた教育活動の可能性の検証、そして自主ゼミ活動の学術サーバー、全国の自主ゼミが集まった全国自主ゼミサークルの運営、さらには Google の公式学生アンバサダープログラムに採択、物理学教育ウェブサイト Physiquest の代表など多様な経験を積んできました。この活動の中で考えたことを即座に行動に移す力を得ることができました。

これから私はこれらの経験を踏まえ、未来のサイエンスコミュニケーションや未来の教育のあり方を作り出していきたいです。さらにここで得た仲間たちと新しい活動にも挑戦し、社会に貢献していきたいです。

講評： AI 時代の教育・サイエンスコミュニケーションという社会的意義の大きい領域で、開発・企画・普及のすべての面で自ら新たな地平を切り拓いてきたこと、多数の受賞歴に裏づけられた高い技術力に加え、全国規模の自主ゼミ合宿の運営など、学内外へ活動を広げていこうという強い意志が感じられることは高く評価できる。今後は、AI 時代の学びを刷新する革新的な EdTech の創出と、異分野をつなぐ新しい学習コミュニティの構築において、さらに大きな役割を果たすことを期待したい。

川邊 のぞみ 医学系研究科 総合保健学専攻 博士後期課程 3年

陸上競技部での活動を通して学んだこと

私は学部入学時より9年間、陸上競技部で競歩選手として活動し、日本選手権や日本インカレといった全国大会に数多く出場してきました。大学院進学後も、研究や卓越大学院プログラムの活動と競技を両立させながら、さらなる研鑽を積んできました。大学院では練習時間の確保が難しくなり、目標を見失いそうになることもありました。しかし、諦めずに競技を続け、博士後期課程3年となった今年度、日本学生個人選手権や西日本インカレで入賞することができました。

私は陸上競技を通して、個人の目標達成にも仲間の存在が不可欠であること、結果をすぐに求めず長期的な視点で向き合うことを学びました。この学びは研究活動にも活かされ、自身のさらなる成長につながったと感じています。

今後は競歩選手としての活動に区切りをつける予定ですが、市民ランナーとして陸上競技と関わり続けたいと思います。また、OGとして陸上競技部の活動に貢献していきたいです。

講評：博士後期課程で研究に従事しながら、競歩という高度な集中力を要する活動を9年間にわたり両立してきたこと、限られた時間の中で練習の質を最大化し、徒歩において名大新記録樹立や全国大会入賞を達成するなど優秀な成果を収めてきたことは高く評価できる。このことを可能にした計画性と自己管理能力は、研究者としての資質にも通じている。今後とも、市民ランナーとしての活動を続けながら、後輩育成や部の発展に貢献することを期待したい。

稲葉 琉斗 工学部 機械・航空宇宙工学科 3年

人間力の追求

私は株のトラの中心として、30名以上の上場経営者取材や、文部科学副大臣への表敬訪問、NHKでの特集を実現し、組織は3名から全国100名となりました。自ら企画した名大での「上場企業経営者の公開取材」では60名の学生の心に情熱で火をつける経験をしました。原点は泥臭い行動力でした。過去に主催したフードロスイベントでは、30店舗に飛び込み取材を行うも中々理解が得られませんでした。しかし、パン屋のロスにピボットし粘り強く行動した結果、8店舗から60個以上のロスパンが集まり、30名以上の学生に魅力を届けるイベントとなりビジコンで企業賞を受賞しました。経験で培った「情熱」「考え方」「組織力学」は、専門の航空宇宙工学でも結実しました。NASAの大会優勝は、課外活動で磨いたコンセプト設計とプレゼンカの成果です。今後「人間力」を追求しながら、株のトラの全国への組織定着と教育インフラ化を推進し、行政連携や海外展開で社会に貢献したいです。

講評：フードロス削減、金融経済教育、宇宙関連ハッカソンという異なる領域を横断しながら、学生主体で企業・行政も巻き込んだ活動を展開してきたことは、高い組織運営力や企画構想力を備えていることを示しており、将来の社会的リーダーとしての資質は高く評価できる。今後とも、これまでの信念を貫き、全国規模の金融教育基盤の確立や国際展開など、若者の学びと社会との接点を広げる新しいモデルを創り出す存在として活躍することを期待したい。

名古屋大学フォーミュラチーム FEM

技術探究と結束力で拓く、ものづくりの挑戦

名古屋大学フォーミュラチーム FEM は、学生フォーミュラ日本大会に向けた車両開発の全工程を学生のみで担っています。活動においては、資金調達から設計・製作、ドライバーまで、すべてを学生自身が主体となって運営しています。今年度は、国内唯一の「カーボンモノコック」と「4輪インホイールモータ」を組み合わせたパッケージを深化させ、EV クラス 3 連覇、通算 7 度目の優勝を果たしました。設計プロセスの適切さやコストの妥当性、販売戦略を想定したプレゼンスキル、さらには走行性能や耐久性など、ものづくりの総合力が問われる本大会において、理論に基づいた妥当性の高い設計を実践した成果が今回の評価に繋がったと確信しています。

今後は、国内チーム初となるインバータの内製化に挑むなど、技術探究の成果を繋げ、日本大会 4 連覇を目指します。また、海外大会への出場も視野に入れ、世界の強豪と渡り合える技術力と組織力の構築に邁進する所存です。

講評：フォーミュラチームの取組は、技術力・組織運営力・問題解決力を総合的に鍛え上げる高度な実践と言え、大会で通算 8 度の優勝を達成するなど、国内随一の成果を示してきたことは、技術力と組織力の現われとして高く評価できる。資金調達から設計・製作・走行までを自ら担い、社会に価値を届ける活動に取り組んできたことは、工学教育の理想形とも言える。今後は世界基準の技術と運営力を備えたチームへ一層進化し、学生エンジニアリングの新たなモデルを示すことを期待したい。

令和7年度総長顕彰を終えて 総評

総長顕彰制度は、学問の研鑽や文化・社会活動等を通じて「名古屋大学学術憲章」の目指す人物像を実践している学生を讃えるとともに、その活動を広く周知することにより、優れた人格と創造性を兼ね備えた人材のさらなる創出の促進を図ることを目的として、平成15年度に創設された。

今年度で23回目を迎える総長顕彰制度へ推薦・応募があった学生達は、いずれもその意欲や姿勢、活動への熱意において素晴らしい学生ばかりであった。

受賞した学生・団体には、名古屋大学が育成を目指す「勇気ある知識人」として更なる研鑽を積み、今後の学生生活、社会生活において、後に続く名古屋大学生の目標となるような人材に成長することを期待したい。

惜しくも受賞に至らなかった学生も、受賞者に負けず劣らず今後の活躍が期待される。機会があれば、あらためて総長顕彰に挑戦していただきたい。

令和7年度総長顕彰委員会委員長 佐久間 淳一

令和7年度総長顕彰委員会

佐久間委員長（副総長・学生支援担当）

星野委員（文学部長）、高井委員（教育学部長）、北委員（情報学部長）

田中委員（理学部長）、中園委員（農学部長）

山崎委員（ジェンダーダイバーシティセンター長）、原田委員（生協理事長）

本顕彰に係る募集は、各部局への募集要項等送付、ポスター、ホームページを通じて、令和7年12月1日（月）～令和8年1月6日（火）の期間に行われ、その結果「学修への取り組み」部門に9件の学部推薦、「正課外活動への取り組み」部門に自薦・他薦を合わせて15件の応募がありました。

これら合計24件の推薦・応募について、総長顕彰委員会による厳正な審査及び合議を経て、最終的に「学修への取り組み」部門から9名、「正課外活動への取り組み」部門から個人4名・団体1組の総勢13名の学生及び1件の学生団体を令和7年度総長顕彰として表彰することを決定しました。